

第2章 地域の概況

第1節 自然環境

1. 位置と地勢

本町は、島根半島の北東約80kmの海上に位置し、隠岐諸島の中で最大の島であり、面積は、242.95km²である。地勢は、ほぼ円形に近い火山島で、隠岐の最高峰大満寺山（607m）を中心に、500m級の山々が連なり、これを源に発する八尾川、重栖川、中村川流域に平地が開けている。島の周辺の海岸全域は、昭和38年に大山隠岐国立公園に指定され、雄大な海洋風景や急峻な山並等が風光明媚な景観を醸し出している。また、海岸は自然の良港に恵まれ、周辺の海域は、北からのリマン海流と南からの対馬海流の影響を受け、国内有数の好漁場となっている。

本町に属する「竹島」は、北西約157kmに位置し、面積は0.21km²である。周辺海域は排他的経済水域であるが、漁業水域を侵され、国際問題となっている。

島根県では、平成17年3月に「竹島の日」条例を制定し、竹島問題についての平和的な解決と領土権の早期確立が求められている。

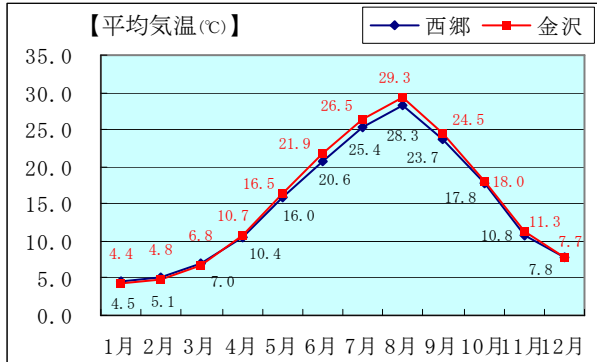
動植物の生態系は、離島という隔絶した環境にあることから、オキサンショウウオやルーミスジミなど、絶滅危惧種として全国的にも珍しい種属や品種が多く生育している。

海路は、西郷港から本土へフェリーで約2時間25分、高速船で約1時間10分、空路は隠岐空港から出雲空港へ約25分、大阪（伊丹）空港へ約50分で結ばれている。

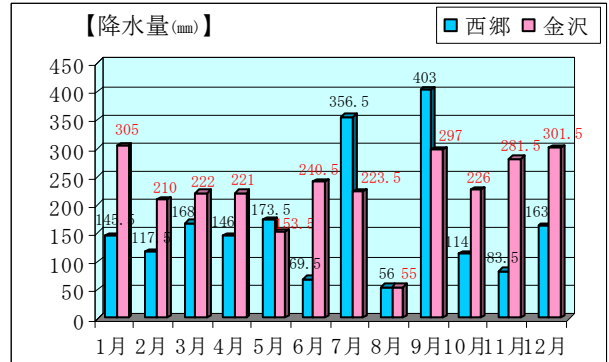


2. 気候

隠岐地域は、地理上、裏日本型気候に属するが、近海を流れる対馬暖流の影響を受け、夏、冬の気温差が小さい海洋性気候に近い。同じ日本海側の北陸地方と比べると、降水量と降雪量が少ない独特の気候となっており、表日本と裏日本の間中型と見られる「暖冬涼夏」の恵まれた気候である。



資料：気象庁「平成22年度気象観測データ」



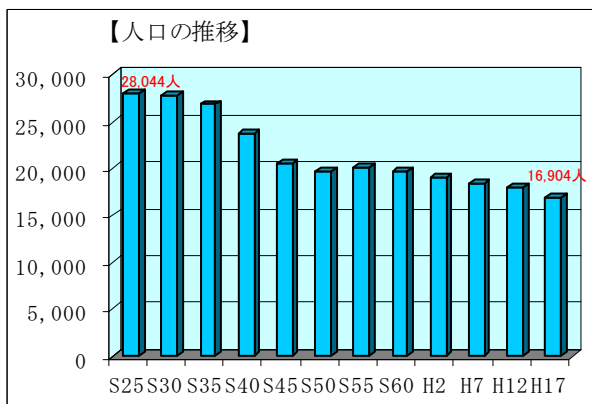
資料：気象庁「平成22年度気象観測データ」

第2節 社会環境

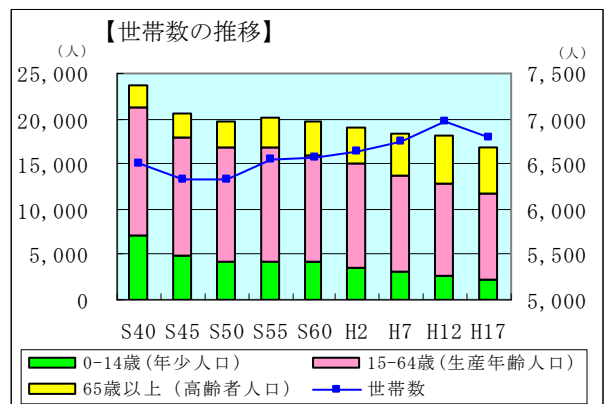
1. 人口動態

本町の人口は、昭和25年の28,044人をピークに減少が続き、平成17年には、16,904人と、ピーク時の約60%にまで減少している。また、年齢階層別人口で見ると、総人口に占める年少人口（0歳～14歳）の割合は12%に近く、高齢者人口（65歳以上）の割合は32%を超え、少子高齢化が進んでいる。

人口の減少と少子化は、子供を産み育てる若年層世代の町外・県外への流出や、未婚者の増加、晩婚化などによる出生率の低下が、その要因となっており、今後もこのような傾向が続くものと予測される。



資料：総務省統計局「国勢調査報告」



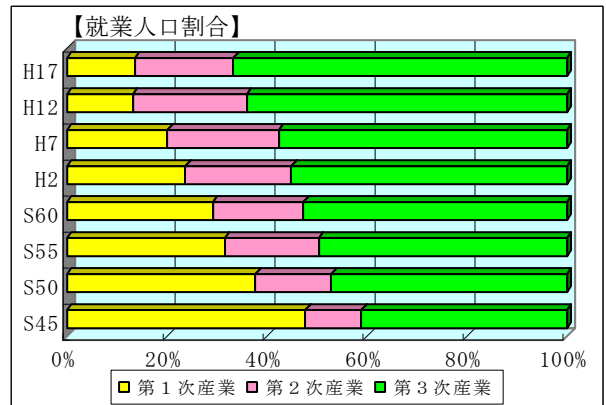
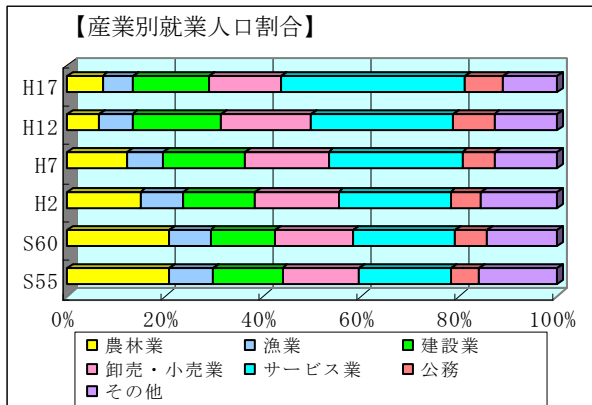
資料：総務省統計局「国勢調査報告」

2. 産業

2-1 産業構造

本町の産業は、農業・漁業を中心に第一次産業を基幹産業として栄えてきたが、就業者数は、昭和45年に50%を占めていたものの、平成17年には13.5%と、高齢化の進行と後継者不足により急激に減少している。また、公共事業に依存していた第二次産業の牽引役である建設業が低迷する中で、第三次産業は全体の70%を占め、医療、介護のサービス業が増加傾向にある。

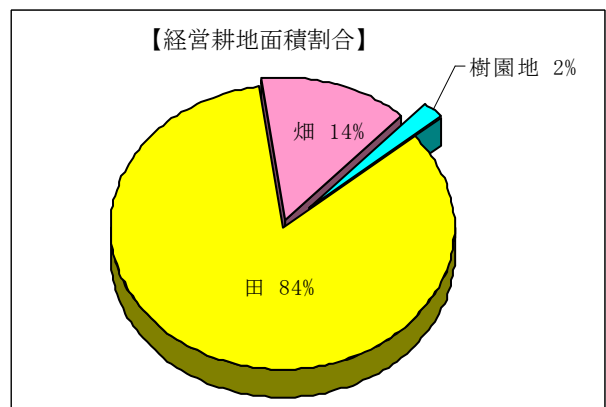
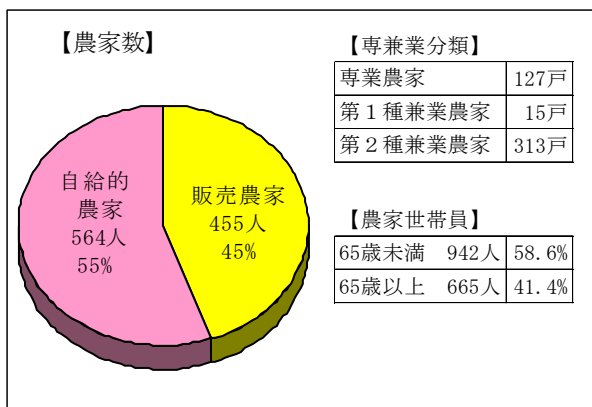
昨今の不況の影響に伴い、建設業の低迷と官公庁の出先機関の撤退、あるいは少子化に伴う学校の統廃合により多数の雇用が失われ、町内の産業の衰退が顕著となっている。



2-2 農業

本町の農家戸数は1,019戸、そのうち販売農家が455戸、自給的農家が564戸である。販売農家のうち、専業農家が127戸、第一種兼業農家が15戸、第二種兼業農家が313戸であり、近年は、生産所得を求めない第2種兼業農家が増加している。経営耕地面積割合は、田が84%と大部分を占め、畑は14%、樹園地は2%に過ぎない。

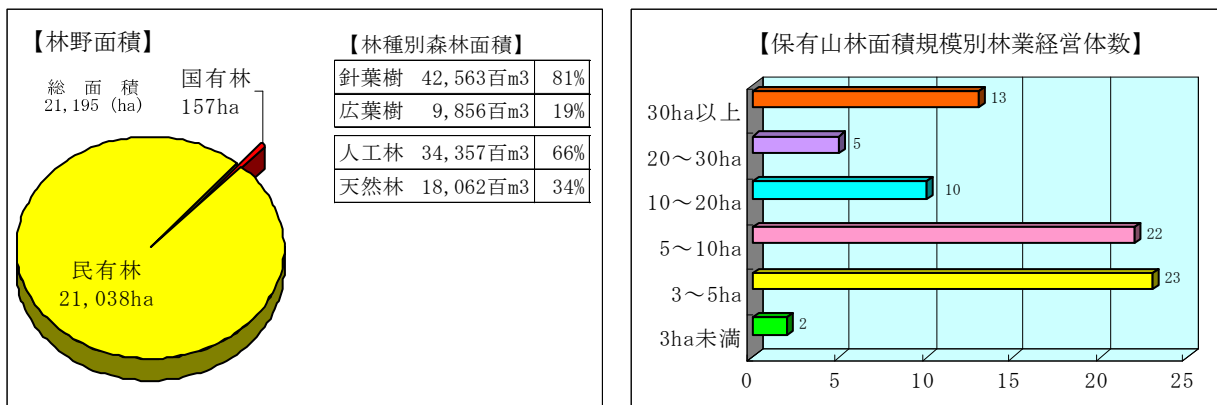
農家戸数及び就業人口は、年々減少傾向にあり、農家世帯員の高齢化率は、41.4%で、農業従事者の高齢化や後継者不足に併せて、遊休農地も増加しており、適正な土地利用・保全が困難な状況にある。



2-3 林業

本町の林業は、気候、土壌条件等から、スギ、クロマツを主体に森林が形成されており、林業経営を主体に生計を立てる林家も見られた時代もあったが、木材価格の低下や輸送コスト高、生産経費増大に伴う収益性の低下などにより林業生産活動は停滞傾向である。

また、高齢化に伴う林業従事者の減少により、森林の維持・管理も困難となり、さらなる林業を取り巻く環境の悪化を招いており、木材生産機能や公益的機能の維持・増進のため、間伐など、適正な管理と松くい虫対策が急務となっている。



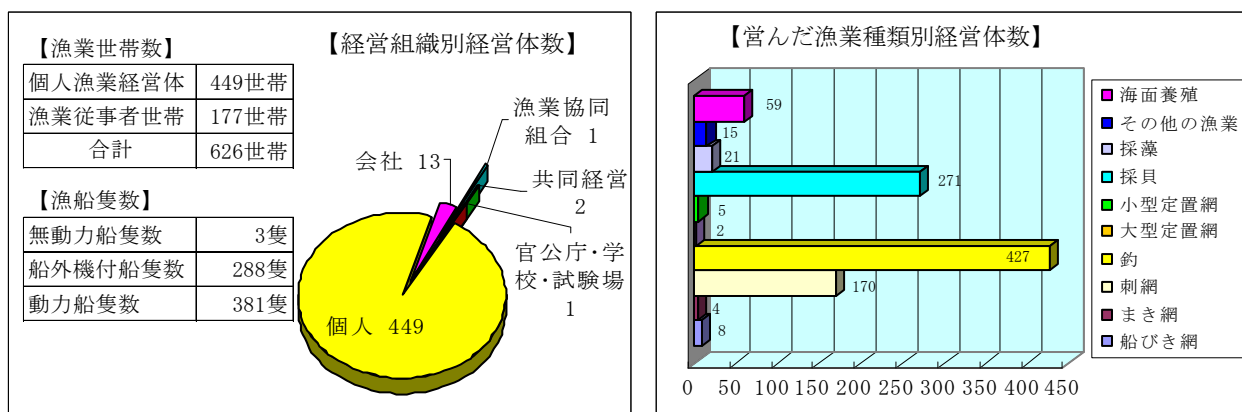
資料：農林水産省「2003年（第11次）漁業センサス」「平成17年海面漁業生産統計調査」

2-4 漁業

漁業は、漁業世帯数が626世帯、経営組織別経営体数が466経営体となっている。

また、漁業種類別経営体数別にみると、釣427体、採貝271体、刺網170体が多く占めている。

隠岐島周辺は、日本有数の好漁場に恵まれていることから、水産業は重要な基幹産業となっているが、漁業就業者の高齢化、後継者不足、水産資源の減少や魚価の低迷、さらに燃油価格の高止まりなどにより、漁業経営の悪化は深刻である。



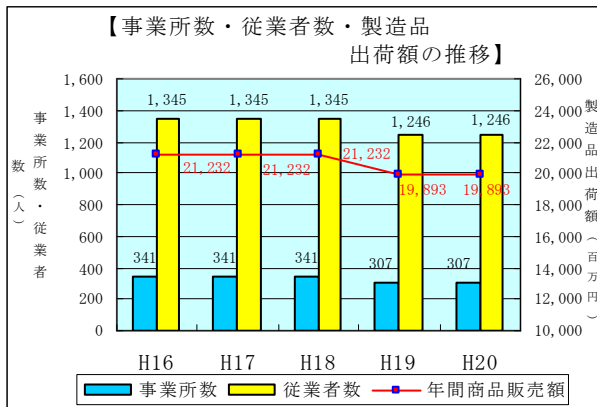
資料：平成20年島根県統計書

資料：平成20年島根県統計書

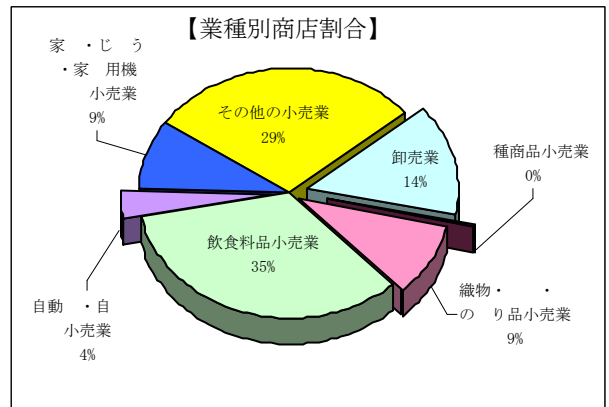
2-5 商業

本町の商店数は307店舗、従業者数は1,246人、年間商品販売額は198億9千3百万円となっている。また、業種別商店割合は、飲食料品小売業が35%と最も高い割合を示し、その他の小売業29%、卸売業14%、と続き、他は10%未満に過ぎない。

小売業は、就業者の高齢化や後継者不足からサービスが低下し、また、郊外へ進出した大規模店やインターネット通信販売等での購入傾向が強まっていることから、町内の小売店が廃業し、高齢者などの買い物が困難となる地域も発生している。



資料：平成20年島根県統計書

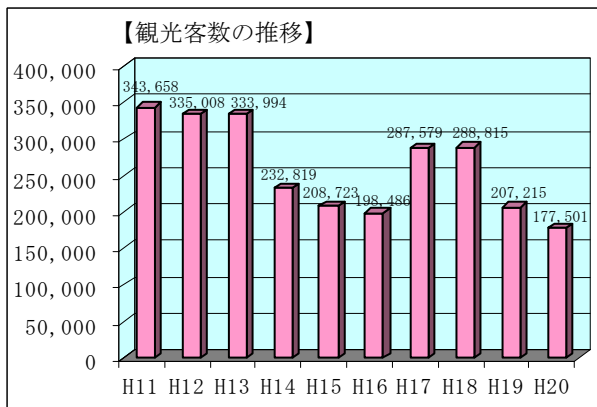


資料：平成20年島根県統計書

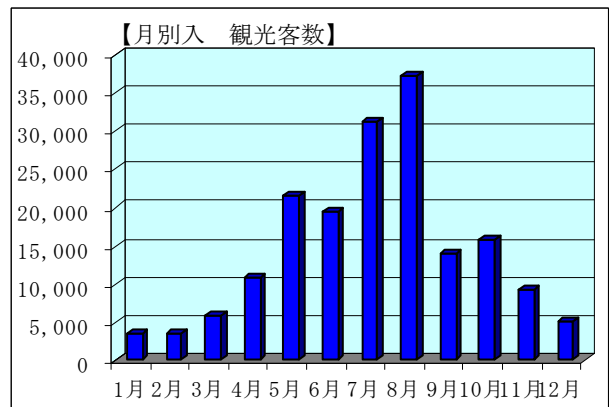
2-6 観光

本町は、自然、歴史、文化など優れた観光資源が豊富にあり、1970年代の離島ブームにより年々観光客は増加していたが、景気の悪化や海外旅行の低価格化などによって国内旅行が低迷し、減少傾向にある。

観光形態は、夏季集中型、短期滞在型の観光で、自然景観・歴史・旧跡を見る観光が主体となっており、再び島を訪れたいと思う「リピーター」の確保が課題となっている。



資料：平成20年島根県統計書



第3節 生活環境

1. 上水道

上水道は、安全な飲料水の安定供給のために、ほぼ全域で整備されており、その普及率は99.4%である。しかし、簡易水道施設の老朽化が顕著となっている。

	上水道	簡易水道
行政区域内人口(人)	15,760	
箇所数	1	18
計画給水人口(人)	13,780	7,982
現在給水人口(人)	9,995	5,672
普及率	99.40%	

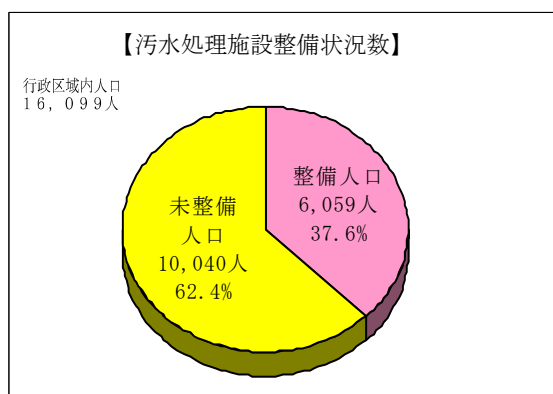
資料：平成20年島根県統計書

注) 普及率は、現在給水人口の行政区域内に対する割合を示す。

2. 下水道

公共下水道、農業集落排水整備事業、漁業集落排水整備事業、合併処理浄化槽及びコミュニティプラントにより汚水処理を進めており、汚水処理施設整備人口は、6,059人、整備率は37.6%である。

居住環境の改善や公衆衛生の向上を図るとともに、水質保全の観点から、早急な整備が求められている。

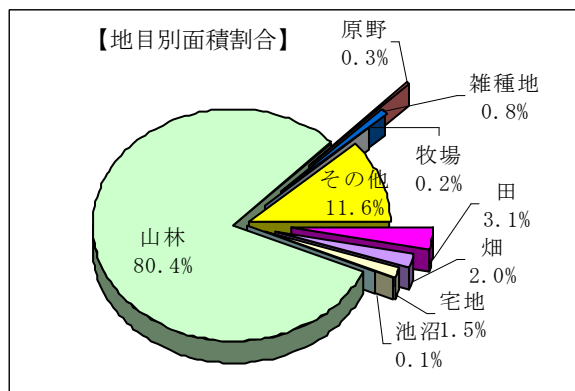


資料：平成20年島根県統計書

第4節 都市環境

1. 土地利用状況

土地利用の構成は、山林が80.4%と圧倒的に多く、田が3.1%、畑が2.0%、宅地が1.5%の順となっている。



資料：平成20年島根県統計書

2. 道路の整備状況

道路整備の状況は、舗装率は国道、県道で100%、実延長の約85%を占める町道では43.5%を示しているが、改良率は低い。

	実延長(m)	改良済延長(m)	改良率(%)	舗装済延長(m)	舗装率(%)
総数	795,668	334,402	42.0	416,488	52.3
国道	33,252	33,252	100.0	33,252	100.0
県道	90,777	86,271	95.0	90,777	100.0
町道	671,639	214,879	32.0	292,459	43.5